

審査項目	B：梓設計・小泉アトリエ・佐藤工業共同企業体	C：鹿島建設・環境デザイン研究所共同企業体	D：前田建設工業・ヨコミソマコト建築設計事務所共同企業体
2. 業務計画提案			
(1) 事業の実施体制提案書 ① 本事業の実施方針 ② 基本設計～施工まで含めた事業の実施体制及び意思決定者や設計、施工の役割分担など ③ 設計体制の独立性と施工技術の活用	・組織事務所主体の設計JV内でコストコントロールを行った後に施工者とコスト協議を行う2段階方式のコスト管理の実施により、設計体制の独立性を確保している点が評価された。 ・技術、デザイン、コストマネジメント能力を補完する設計事務所と建設会社の協働体制は、良好なチームワークをそのまま事業実施体制に移行できるものであると評価された。	・設計・工事監理チームが先頭に立ち設計・コスト管理を行い、小田原市と合意形成の上、発注者・設計者の設計ポイントを明確化し、施工者とのコストコントロールの際にも発注者・設計者にとってゆずれないポイントは変更しない本事業の実施方針が評価された。 ・統括管理者とは別にプロジェクトマネージャーをメンバーに加えており、事業実施体制としては、施工者主導となる懸念がある。	・技術支援組織として各種専門部会を設置し、プロジェクトを関係者一体で推進しながらも、設計者が主体となって施工者の協力体制を確立している点が評価された。
(2) 設計業務の実施方針提案書 ① 具体的な設計業務の進め方 ② 要求水準を満足する設計品質確保に向けた企業体としてのチェック確認方法 ③ 要求水準を満足する設計品質確保を発注者と確認する方法 ④ 市民説明の頻度や市民の意見に対する技術的見解の提示など、市民や発注者との設計業務の進め方	・要求水準確認計画書による発注者との品質確認の実施、設計チームから独立した組織事務所内の「品質管理チーム」や「環境サポートチーム」によるチェックの実施など、具体的に提案されている点が評価された。	・要求水準確認計画書による漏れのない確実なチェック及び決定経緯の記録による手戻りの防止、設計組織内部に第3者を入れた4つの横断的委員会を組織して品質を確保するなど、具体的に提案されている点が評価された。なお、第3者を入れた委員会については、委員会に市の意見を取り入れられる構成が望ましいとの意見があった。	・当施設の特性に合った性能品質チェック項目を設定し設計者・施工者でクロスチェックを行うことによる設計品質の確保や設計初期段階よりBIMを導入し設計業務の見える化を行うことによる発注者との設計品質の確認方法について評価された。
(3) 事業工程計画提案書 ① 事業工程計画 ② 事業工程管理計画	・小田原市による予定価格作成期間を考慮した工程計画となっていることや、コスト超過に対してもVE検討等の変更対応期間が計画され、遅延防止について対策が図られた事業工程計画となっていることが評価された。	・工程管理上の重点管理項目の設定、工程管理基準レベルの設定とモニタリングによる遅延回復に向けた調査と対応、施工部門による資材・人員の早期確保や施工図・製作図・発注の前倒しによる工程遅延リスク回避など、工程管理手法及び遅延防止対策について具体的に提案されている点が評価された。	・要求水準書を満たす提案であった。
3. 施設計画提案			
3.1 施設全体計画提案			
(1) 全体配置計画提案書 ① 芸術文化創造活動の拠点としての考え方 ② 小田原駅・小田原城周辺との関係性を高め、街全体の回遊性への考え方 ③ 中心市街地の活性化やにぎわいを生み出す施設としての考え方 ④ 小田原城や三の丸地区周辺環境に配慮した小田原の都市景観形成の先導的施設の考え方	・小ホール、ギャラリーをオープンロビーと連携して利活用の幅を広げる点について評価された一方、利用方法や利用頻度など運用上の懸念があった。 ・24時間通り抜けられる「城下みち」により東西動線を確保した点について評価された一方、館内を常時開放することへの管理運営リスクが懸念された。 ・オープンロビー周りの小ホール、ギャラリーに加えて、城前広場、2階吹抜けロビー等との連携により、屋内外での文化活動が見える開かれた活動交流ゾーンが計画されている点が評価された。	・お堀端通りと国道一号を繋ぐ東西の新たな動線軸をつくり、まちの回遊性に連動した計画が評価された。 ・回遊性を喚起する屋内外の動線計画が地域全体に人の流れを生み出し、また、にぎわい広場等を今後市民と計画していく点が評価された。 ・各にぎわいの焦点から近接エリアまでの解析や空間特性の指標化など、「新しいにぎわいの拠点」として理論的に計画されている点が評価された。	・24時間通り抜け可能な公共空間として提案された「屋上栈敷」や「よみせ小路」はホール以外の魅力を施設に与える考え方として評価された一方、栈敷と地上階がにぎわいを取り合ってしまうのではないかと、一定の高さを登って降りる必要があることからブリッジとしての役割が弱くなってしまうのではないかと懸念された。 ・滞在型観光のためにまち巡りの中継点となる考え方が評価された。
(2) 建築計画提案書 ① 各機能の配置計画及び動線（一般利用者・バック）計画 ② 外装計画 ③ 維持管理計画・ライフサイクルコストの縮減策	・管理運営がしやすいよう、オープンロビーと管理事務室を中心に各機能を配置する計画が評価された。 ・吹抜け空間をもつオープンロビーは多様な利活用ができる点が評価された一方、そこから2階への動線が弱いのではないかと懸念された。	・大小ホールの連携使用や施設内の回遊性、シンプルな動線計画が評価された一方、小ホールや創造支援系機能がお堀端通りに面していない配置について、市民利用において、より工夫が必要であると懸念された。 ・フライタワーを形態的に解決するため大屋根構造を採用し、外壁面積の縮小とガラス面を多く設えることによるメンテナンスコストの縮減を図る点で評価された。	・屋上栈敷は設置効果が評価される一方、内部空間が制約されていること、気候・天候に左右される空間であること、市民利用における日常管理、メンテナンスコストについて懸念された。
(3) 構造計画提案書 ① 構造計画概要及び仕様 ② 略伏図・略軸組図及び仮定断面	・計画共用期間を100年とした耐久性の確保について評価された。	・高耐久性コンクリート仕様について耐久性の確保の点で評価された。	・要求水準を満たす提案であった。
(4) 電気設備計画提案書 ① 電気設備計画概要及び仕様 ② 電気設備機器による騒音・振動対策及び舞台設備へのノイズ対策 ③ 維持管理計画・ライフサイクルコストの縮減	・要求水準を満たす提案であった。	・受電容量・発電容量ともに最も大きく余裕をみた計画となっていることや、BEMSの導入、デマンド制御など多数の具体的な提案が評価された。	・要求水準を満たす提案であった。
(5) 機械設備計画提案書 ① 機械設備計画概要及び仕様 ② 機械設備機器による騒音・振動対策及び舞台設備へのノイズ対策 ③ 維持管理計画・ライフサイクルコストの縮減	・BEMSの導入及びライフサイクルコスト縮減提案としての大ホールの空調熱源方式（ガス・電気ミックス）提案が評価された。	・BEMSの導入及びライフサイクルコスト縮減提案としての大ホールの空調熱源方式（ガス・電気ミックス）提案が評価された。	・要求水準を満たす提案であった。

審査項目	B：梓設計・小泉アトリエ・佐藤工業共同企業体	C：鹿島建設・環境デザイン研究所共同企業体	D：前田建設工業・ヨコミゾマコト建築設計事務所共同企業体
3.2 各機能計画 (1)大ホール系機能提案書 ① 大ホール系機能計画 ② 舞台機構・照明・音響設備計画 (2)小ホール系機能提案書 ① 小ホール系機能計画 ② 舞台機構・照明・音響設備計画 (3)展示系機能提案書 展示系機能、分割利用方法、内装計画等 (4)創造系・支援系機能提案書 遮音・振動対策、内装計画等 (5)交流系機能提案書 にぎわい、施設の利用度を上げる方策、内装計画等 (6)外構計画提案書 にぎわい、施設の利用度を上げる方策、外構計画等	・大ホールはストレートな配置で建築音響的に期待できる点が評価された。 ・オーケストラピットに客席ワゴンが計画されている点が評価された。 ・小ホール・オープンロビー・ギャラリーとの一体的な利用により多目的利用を可能としている点が評価されたが、市民利用の中では一体的な使用の頻度が低いことや小ホールの遮音性について懸念された。 ・可動音響反射板の設置による建築音響性能の確保策について評価された。 ・オープンロビー、小ホール、中スタジオと連携し、西相展等の大規模展示にも余裕をもって対応できる計画について評価された。 ・中スタジオを大・小ホールの中に配置し大・小ホールとの機能連携が可能な点が評価された。 ・要求水準を満たす提案であった。 ・要求水準を満たす提案であった。	・大ホールは十分な検討がされており、音響的に期待できる点や客席が舞台に向けて座れるような工夫がされている点、大ホールに対して小ホールやスタジオを近接して配置することで楽屋として連携利用ができる点が評価された。 ・古典芸能にも配慮した舞台計画やオーケストラピットに客席ワゴンが計画されている点が評価された。 ・小ホールをクローズ空間として完結させた上で、舞台と客席部での2分割によるスタジオ利用など市民活動に配慮した多目的利用について評価された。 ・小ホール主舞台は最大300席設置状態で舞台奥行きが5間あり、要求水準以上の性能を確保できている点など、小ホールでの実際の舞台利用を想定した提案が評価された。 ・可動音響反射板の設置による建築音響性能確保策について評価された。 ・ギャラリーの他に回廊を計画し、回遊性のある展示空間としているが、シアター回廊が狭いことやギャラリーとオープンロビーの一体利用時の空間の確保について懸念された。 ・創造スタッフ室の提案による管理・運営への配慮が評価された。 ・要求水準を満たす提案であった。	・要求水準を満たす提案であった。 ・要求水準を満たす提案であった。 ・三の丸スクエア、小ホール、中スタジオと連携し、西相展等の大規模展示にも余裕をもって対応できる計画について評価された。 ・要求水準を満たす提案であった。 ・要求水準を満たす提案であった。 ・屋上栈敷やよみせ小路などにぎわいや施設の利用度を上げる提案が評価された。
4. 施工計画提案 (1)施工品質管理提案書 施工品質を確保するための重点ポイント、方策及び管理手法 (2)総合施工計画提案書 近隣及び観光客等、周辺環境に配慮した総合施工計画等	・「施工品質を確保するための重点ポイント、方策及び管理手法」について、具体的に計画された提案となっている。 ・「近隣及び観光客等、周辺環境に配慮した総合施工計画等」について、具体的に計画された提案となっている。	・「施工品質を確保するための重点ポイント、方策及び管理手法」について、具体的に計画された提案となっている。 ・「近隣及び観光客等、周辺環境に配慮した総合施工計画等」について、具体的に計画された提案となっている。	・「施工品質を確保するための重点ポイント、方策及び管理手法」について、具体的に計画された提案となっている。 ・「近隣及び観光客等、周辺環境に配慮した総合施工計画等」について、具体的に計画された提案となっている。
5. コスト管理計画提案 (1)提案事業費の妥当性 ① 内訳明細書の算出根拠・妥当性 ② 提案事業費総括表 ③ 提案事業費内訳明細書 (2)コスト管理方針提案書 ① 内訳明細書を発注者とのコスト管理の共通ツールとして活用する方策 ② 内訳明細書によるコスト管理の方法 ③ 物価上昇・与件不可避な項目に対するコスト管理の方法	・「提案事業費」は、事業費上限額以内となっている。 ・建築工事は部位別内訳となっているが、積上による算出と専門工事会社見積徴収により細目レベルで見積検討されており、詳細内容を把握できる内訳明細書となっていることが評価された。 ・「内訳明細書を発注者とのコスト管理の共通ツールとして活用する方策」について、具体的な手法が提案されていることが評価された。 ・「内訳書によるコスト管理の方法」について、設計段階に高い頻度で内訳書を更新し、最新のコスト情報が常に共有できる提案が評価された。	・「提案事業費」は、事業費上限額以内となっている。 ・内訳明細書の記載内容から詳細内容を把握することが難しく、設計段階におけるコスト管理や円滑な価格交渉における内訳明細書の活用という点で懸念され、さらなる詳細内訳の提出が求められた。 ・「内訳明細書を発注者とのコスト管理の共通ツールとして活用する方策」について、具体的な手法が提案されていることが評価された。 ・「物価上昇・与件不可避な項目に対するコスト管理の方法」において、具体的に提案されていることが評価された。	・「提案事業費」は、事業費上限額以内となっている。 ・提案事業費総括表と同じ工種別内訳構成とし、詳細内訳も丁寧に作成されており、設計段階におけるコスト管理や円滑な価格交渉における内訳明細書となっていることが評価された。 ・「内訳明細書を発注者とのコスト管理の共通ツールとして活用する方策」について、具体的な手法が提案されていることが評価された。 ・「内訳書によるコスト管理の方法」について、設計段階に高い頻度で内訳書を更新し、最新のコスト情報が常に共有できる提案が評価された。 ・「物価上昇・与件不可避な項目に対するコスト管理の方法」において、具体的に提案されていることが評価された。
6. 地域貢献提案 (1)地域貢献 ① 小田原市内の建設事業者の活用 ② 小田原市内の建設資材の購入計画 ③ 小田原市内の建設事業者以外の業種の活用方法	・『地域貢献』提案として、具体的に提案されていることが評価された。	・『地域貢献』提案として、具体的に最も多く提案されていることが評価された。	・『地域貢献』提案として、具体的に多く提案されていることが評価された。